

社会的な見方・考え方を働かせ、自ら課題を見出す児童の育成

～津田梅子の教材化を通して



1 研究主題 社会的な見方・考え方を働かせ、自ら課題を見出す児童の育成
～津田梅子の教材化を通して

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請

令和3年1月中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～では「急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力」として、以下のように述べられている。

人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは『非連続』と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

(中略₁) このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力としては、文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方₂を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力などが挙げられた。また、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神の育成等を図るとともに、子供の頃から各教育段階に応じて体力の向上、健康の確保を図ることなどは、どのような時代であっても変わらず重要である。

国際的な動向を見ると、国際連合が平成27(2015)年に設定した持続可能な開発目標(SDGs)などを踏まえ、自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなど、地域や地球規模の諸課題について、子供一人一人が自らの課題として考え₃、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育むことが求められている。

(後略₄)

また、本研究で教材化した津田梅子は2024年度上期発行予定の五千円札の肖像として選定されており、その選定理由として財務省は以下のように回答している。

「新しい紙幣の肖像になる渋沢栄一氏、津田梅子氏、北里柴三郎氏は、それぞれの分野で傑出した業績を残すとともに、長い時を経た現在でも私たちが課題としている新たな産業の育成、女性活躍、科学の発展といった面からも日本の近代化をリードし、大きく貢献した₅方々です。三者ともに、日々の生活に欠かせず、私たちが毎日のように手に取り、目にする紙幣の肖像としてふさわしいと考えています。(財務省 HP「紙幣の肖像の選定理由を教えてください。」<https://www.mof.go.jp/faq/currency/07ap.htm>)。

以上のように現代社会から要請に加え、適時性という視点からも本研究の有用性を述べることができると考えた。
*文中の略及びゴシック体は西村による。以下同。

(2) 学習指導要領から

平成29年7月「小学校学習指導要領解説社会編」では、教科の目標を以下のように示している。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通し

て社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

以上の目標を受けて設定された6学年の目標は以下のとおりである。

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

以上のとおり、学習指導要領からも、社会的な見方・考え方を働かせ、自ら課題を見出す児童の育成を目指していることが読み取れた。特に「国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解する」知識を育成する点から、津田梅子を教材化することの意義はあると考えた。

(3) 印教研社会科研究部研究主題との係わり

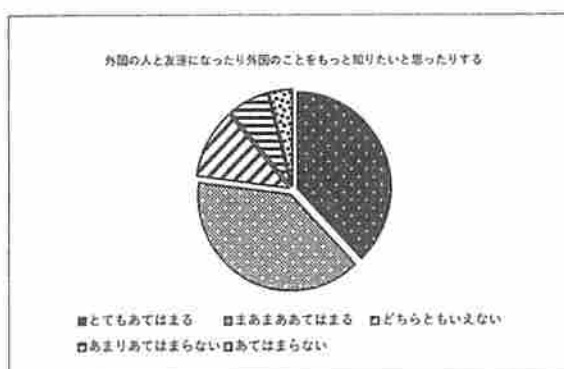
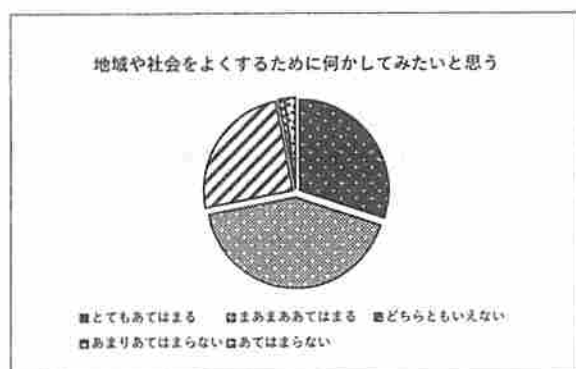
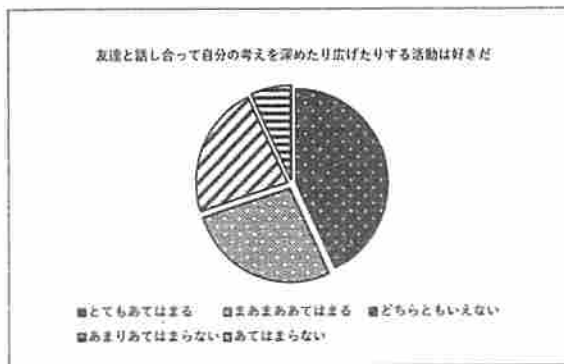
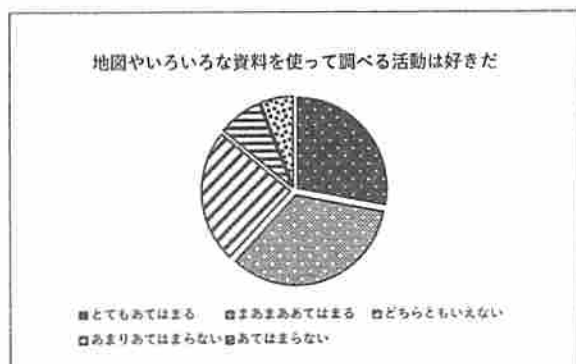
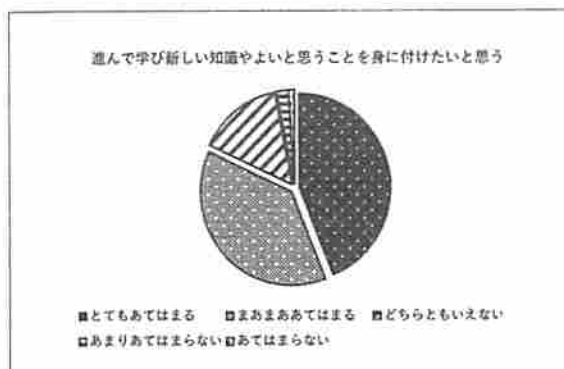
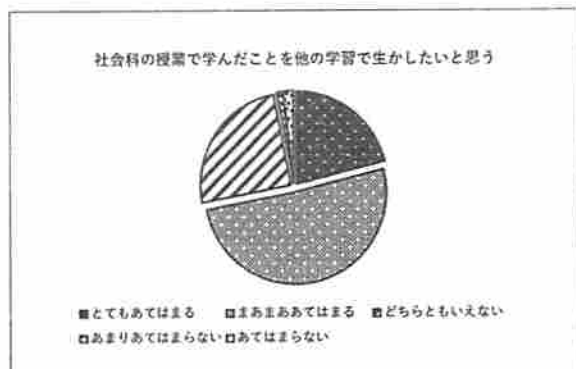
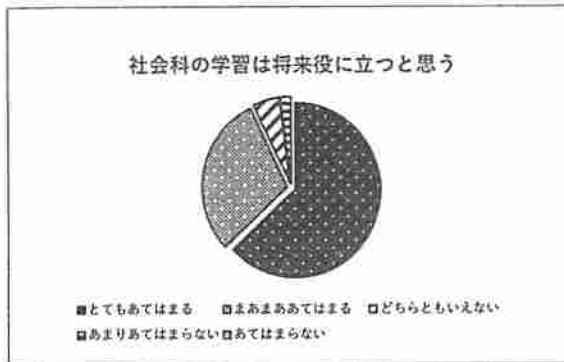
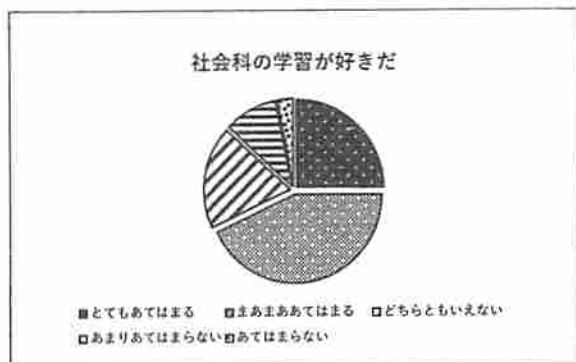
今年度の印教研の研究主題は「よりよい社会の実現に寄与する生きる力を培う社会科学習－自ら課題を見出し、自らの考えを表現できる児童の育成を目指して」である。本研究では特に副主題部分の「自ら課題を見出し」の資質・能力を焦点化し、研究を進めることとした。研究の結果、「よりよい社会の実現に寄与する生きる力を培う社会科学習」となり得たかどうかについても考察していきたい。

(4) 児童の実態から

本研究の前提の知識を問い、津田梅子を教材化することの適否を問うことを目的として、実態調査を行った。

実態調査結果(令和5年6月実施、対象:西志津小6年122名)

① 社会科に対する意識調査



調査の結果、すべての質問に対し「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」という肯定的回答が70%以上であり、本校の児童は、社会科学習における主体的に学習に取り組む態度の評価はおおむね満足できるものであった。特に、「進んで学び、新しい知識やよいと思うことを身に付けたいと思うか」という質問に対しては、肯定的回答が80%を超えていた。さらに、「友達と話し合って自分の考えを深めたり広めたりする活動は好きか」という質問に対しても、コロナ禍で意見交換やグループワークなどに制限があった中で、対話を通して社会的な見方・考え方を身に付けようとする意欲をもつ児童が多いことがわかった。

② 単元の前提調査

歴史的事象認知度	無回答	%	名前だけ	%	記述あり	%
1 黒船の来航	55	45%	35	29%	31	26%
2 開国	65	54%	34	28%	22	18%
3 明治維新	80	66%	35	29%	6	5%
4 廃藩置県	101	83%	12	10%	8	7%
5 富国強兵	104	86%	11	9%	6	5%
6 殖産興業	106	88%	13	11%	2	2%
7 地租改正	105	87%	14	12%	2	2%
8 四民平等	85	70%	30	25%	6	5%
9 文明開化	70	58%	47	39%	4	3%
10 自由民権運動	60	50%	54	45%	7	6%
11 大日本帝国憲法	50	41%	61	50%	10	8%

人物認知度	無回答	%	名前だけ	%	記述あり	%
1 ベリー	27	22%	58	48%	36	30%
2 明治天皇	29	24%	74	61%	18	15%
3 大久保利通	84	69%	31	26%	6	5%
4 西郷隆盛	35	29%	55	45%	31	26%
5 木戸孝允	94	78%	21	17%	6	5%
6 板本龍馬	21	17%	75	62%	25	21%
7 福沢諭吉	11	9%	45	37%	65	54%
8 津田梅子	2	2%	49	40%	70	58%
9 板垣退助	87	72%	23	19%	11	9%
10 伊藤博文	66	55%	34	28%	21	17%
11 大隈重信	83	69%	31	26%	7	6%

新札肖像画認知度	無回答	%	正答	%	誤答	%
1 1万円（渋沢）	91	75%	16	13%	14	12%
2 5千円（津田）	78	64%	42	35%	1	1%
3 1千円（北里）	105	87%	4	3%	12	10%

黒船の来航や開国という歴史的な事象については、約半数の児童が認知しているが、明治維新の具体的な政策やそれらにかかわった人物については、認知度が低かった。その中において、津田梅子についてはほぼ全員が認知し、約6割の児童が何らかの記述ができていた。新札の肖像画における津田梅子の認知度も、渋沢栄一や北里柴三郎と比較して高かった。また、津田梅子の記述については、留学時の年齢のずれ（旧暦扱いと新暦扱いの差もある）や、多少の事実誤認はあるものの、父の津田仙と関連付けての記述や、アメリカ留学、さらには女子教育に生涯をささげたことなど、的確な記述が多かった。

比較のために他市の6年生に協力を依頼し同様の実態調査を行ったが、津田梅子の認知度について、他の歴史上の人物との明確な差は現れなかった。

津田梅子自身は佐倉の地を踏んでいないが、父の津田仙同様に佐倉ゆかりの人物ととらえることができる。地域の先覚者に対する関心の高さは、平成15年度から佐倉市で実践を重ねてきた“佐倉学”の成果と考えられる。

3 研究の目標

第6学年「9 明治の国づくりを進めた人々」単元の指導において、「津田梅子」を教材として扱うことで、社会科の見方・考え方を働かせ、自ら課題を見出す児童を育成できることを明らかにする。本年度は2か年計画の1年目とし、指導計画立案までを行う。

4 研究の仮説

国家及び社会の発展に大きな働きをした先人「津田梅子」の業績を理解させることで、往時の社会の課題を見出させ、よりよい社会の実現に寄与する生きる力を培うことができるだろう。

5 研究の内容

(1) 研究における定義づけ

- ①「社会的な見方・考え方」とは、「『社会的事象の見方・考え方』とし、社会的事象の特色や意味などを考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の『視点や方法(考え方)』であり、『位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること』と整理」とされている。(解説書 P.10)

本研究における視点としては、「明治時代の学問にむけての性差」等をきっかけに、明治から令和への時間の経過に着目して比較したり、自分たちの生活と関連付けて考えさせたりすること」となる。

- ②「自ら課題を見出す児童」については、解説書「指導計画作成上の配慮事項」より設定した。(解説書 P.135)

「主体的な学びの実現については、児童が社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組むようにすることが求められる。そのためには、学習対象に対する関心を高め問題意識をもつようにするとともに、予想したり学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討すること、また、学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見いだしたりすること、さらに、学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることが必要である」とされている。本研究ではそれぞれの学習過程に於いて、

- i) 社会的事象から学習問題を見出す児童、
- ii) 解決への見通しをもって取り組む児童 等

とし、予想や学習計画立て、追及・解決方法の検討や振り返り、新たな問いの見出し等の活動を通して、学習するよう配慮するようにする。

(2) 研究の手立て

- ①「津田梅子」を教材化する。津田梅子に関する文献にあたり、津田梅子資料室(津田塾大学内)で聞き取りを行ったりする等して、児童用の副読本様の冊子を作成し、教材として扱う。
- ② 第6学年「9 明治の国づくりを進めた人々」単元の指導計画を再構築する。

6 研究の実践

(1) 単元計画

学習過程	時数	学習活動	評価規準(観点)【方法】
見出す	1	<p>○江戸時代の末頃と明治時代の初め頃の日本橋近くの様子や寺子屋と学校とを比較し、大きな変化があったことを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の服装や髪形、乗り物、建物、照明(ガス灯) ・校舎の様子、先生の服装、子供たちの学び方 <p>○江戸時代末～明治時代初めの30年程度の間、社会全体が大きく変化したことをとらえ、学習問題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明治維新」という言葉を知る。 	<p>・江戸時代末と明治時代初めの違いに着目し、社会が変化したことをとらえている。</p> <p>(思・判・表)【発言・ノート】</p>
		<p>だれが、どのような思いで明治維新を進めていったのだろうか。</p>	
調べる	1	<p>○「ペリーの上陸」の絵などの資料をもとに、江戸時代の末期に起きたことを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1853年に4隻の軍艦を率いて来航した。 ・開国を迫られた幕府は大混乱となった。 ・1854年、日米和親条約が結ばれ開国し、鎖国が終わった ・1858年に日米修好通商条約が結ばれ、外国との貿易が始まった。 ・外国との国力の差が大きいことがわかった。 <p>○開国後に武士達がどのような思いをもって活動し、世の中がどのように変わっていったのかを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府を続けたい派と新しい政府を作りたい派の争いが起こった。 ・1867年に徳川慶喜が政権を調停に返した。 ・1868年に明治天皇の名で五箇条の御誓文が定められ、新しい時代が始まった。 	<p>・我が国が開国したことを機に、江戸時代が終わり、明治の新しい政府が誕生したことについて理解している。</p> <p>(知・技)【発言・ノート】</p>
	1	<p>○新しい政府はどのような国づくりを目指して取り組んでいったのかを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の方針が日本中に広まるようにするために、廃藩置県を行った。 ・大久保利通や木戸孝充らはヨーロッパの国々に追いつくために、工業を盛んにし、強い軍隊をもつという富国強兵に力を入れた。 ・近代的な工業を始めるために、国が運営する官営工場を開き、産業を盛んにする殖産興業に力を入れた。 	<p>・政治の中心となった人物が進めた取り組みを調べ、国づくりの特色を理解している。(知・技)【発言・ノート】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・武士にかわり訓練された近代的な軍隊をもつために徴兵令を出した。 ・国の収入を安定させるために、地租改正を行い土地に対する税の仕組みを改めた。 	
調べる	<ul style="list-style-type: none"> ○文明開化の意味を明らかにし、人々の生活の変化を調べる。 ・文明開化により、西洋から多くのことが紹介されたり、取り入れられたりした。 ・新しい時代の学問を学び、それにふさわしい生き方や考え方に興味をもつ人が多くなった。 ・1871年には身分制度が変わり、国民は平等であるとされた。 ・1872年に学制が公布され、6才以上の男女が学校に通うようになった。 ・鉄道が開通したり、郵便制度ができたり、電信が始まりました。 ・福沢諭吉が「学問のすすめ」を著し、学問の重要性を説いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新を機に欧米に追いつくために、積極的に文化を取り入れようとしたことを理解している。 (知・技)【発言・ノート】
	<ul style="list-style-type: none"> ○津田梅子の業績について調べる。 ・満6歳という最年少で女子留学生に選ばれ、アメリカに渡った。 ・帰国後に日本の女性が高等教育を受けることができるように尽力し、女子英学塾を開いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津田梅子の業績について理解している。 (知・技)【発言・ノート】
	<ul style="list-style-type: none"> ○津田梅子の思いや考え方をとらえる。 ・オールラウンドウーマン(女性も自立した人間になる)という考え方をもっていた。 ・男性と対等な立場に立つために、女性も勉強する必要がある。 ・女性も社会で活躍することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津田梅子の人生を知ること、女性の生き方について、主体的に考え、課題を見出そうとしている。 (態度)【発言・ノート】
	<ul style="list-style-type: none"> ○なぜ津田梅子は、女子の教育を受けられるように力を尽くしたのか話し合い、まとめる。 ・制度上女性も教育を受けることができるようになったのに、実際の就学率は大変低かった。 ・女性が高等教育を受けたり社会で活躍したりすることはなかなか実現しなかった。 ・女性も自立して生きるというように、意識を変えることが必要だと考えた。 ・女性も男性も平等で対等な関係であるべきだと考えた。 ・自身の生涯をささげて、日本の女子高等教育発展のために力を尽くした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津田梅子の考えに着目し、明治時代の政策や社会の課題をとらえ、よりよい社会をつくるにはどうしたらよいか考え、表現している。 (思・判・表)【発言・ノート】

調べる	1	<p>○新しい政府の改革に不満をもつ立場の行動を調べ、世の中の変化を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの士族は、武士として得ていた収入を失って生活に困るようになった。 ・西郷隆盛ら士族による反乱が各地で起こったが、政府の軍隊によって鎮圧された。 <p>○自由民権運動の特色を調べ、その成果について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板垣退助ら国会開設を主張する勢力が現れ、人々の中にも政治参加を求める声が強まった。 ・政府の厳しい取り締まりに屈しない自由民権運動の広まりによって、政府は国会を開くことを約束した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動が広がったことを理解している。 <p>(知・技)【発言・ノート】</p>
	1	<p>○国会開設に先立って板垣退助や大隈重信らが行ったことを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政党が作られた。 ・各地で様々な立場の人が憲法案をつくった。 ・伊藤博文はドイツで憲法を学び、内閣制度をつくった。また、初代内閣総理大臣に命じられ、憲法をつくる仕事に力を注いだ。 <p>○大日本帝国憲法や国会の特色を調べ、国の政治の在り方について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1889年天皇が国民に与える形で大日本帝国憲法が発布された。 ・大日本帝国憲法は、天皇が主権をもち、軍隊を率いたり条約を結んだりするのも天皇であった。 ・国会は貴族院と衆議院からなり、衆議院のみ国民の選挙で選ばれた。 ・選挙権は一定の税金を納めた25歳以上の男子のみに認められた。 ・1890年に第1回の国会が開かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国会の開設に備えて板垣退助や大隈重信が政党をつくったことや伊藤博文が憲法制定に重要な役割を果たしたことを理解している。 <p>(知・技)【発言・ノート】</p>
広げ深める	1	<p>○調べたことを振り返り、多くの人物が明治維新で様々なことを行ったことを年表にまとめ、明治維新によって、国や社会のしくみ、人々の生活や考えがどのように変わったのか、話し合いを通して自分の考えを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新の政策に着目し、成果と課題をとらえ、よりよい社会をつくることについて考え、表現している。 <p>(思・判・表)【発言・ノート】</p>
まとめる	1	<p>○明治維新以降の学習を通して学んだことから、これからの時代を生きる自分たちに必要なことは何か考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代の政治の仕組みや世の中の様子と、今の社会の様子との共通点や相違点を比較し、課題について考え、適切に表現している。 <p>(思・判・表)【発言・ノート】</p>

(2) 各時の指導

①4/11時

i) 目標 明治維新を機に欧米に追い付くために積極的に文化を取り入れようとしたことを理解する。

(知識及び技能)

ii) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価(観点)【方法】	資料
5	<p>【見いだす】</p> <p>1 江戸時代末頃の寺子屋と明治時代初期の学校の違いを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺子屋から学校へ学ぶ場所が変わっている。 ・今みたいに一斉に授業を受けている。 ・西洋風の建物で学習している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代になると人々の間で西洋の考え方が広まってきたことを想起できるようにする。 ・明治政府により、「文明開化」という施策が推し進められたことに気付かせる。 	寺子屋と学校の写真
2	<p>2 本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>文明開化によって、人々の生活はどのように変わったのだろう。</p> </div>		
3	<p>【自分で取り組む】</p> <p>3 学習問題に対する予想を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋の文化が取り入れられ、外国の真似をして人々の生活が変わったのではないか。 ・子供たちは身分に関係なく学校で勉強するようになったのではないか。 ・男子だけでなく女子も勉強できるようになったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武士が社会の中心であった江戸時代は、身分や性別によって子供たちの学びに大きな差があったことを想起させる。 	学制発布後の学校数・児童数・教員数の推移
15	<p>4 予想が正しいかどうか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文明開化により、西洋から多くのことが紹介されたり、取り入れられたりした。 ・新しい時代の学問を学び、それにふさわしい生き方や考え方に興味をもつ人が多くなった。 ・1871年に身分制度が変わり、国民は平等であるとされた。 ・1872年に学制が公布され、6才以上の男女が学校に通うようになった。 ・鉄道が開通したり、郵便制度ができたり、電信が始まったりした。 ・福沢諭吉が「学問のすすめ」を著し、学問の重要性を説いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文明開化によって、人々が期待した変化とは何かを想起させる。 ・文明開化により取り入れられた西洋の文化について、内容だけでなく人々の生活に与えた影響について、考えながらまとめられるよう支援する。 	資料集 男女別就学率の推移

15	<p>【広げ深める】</p> <p>5 調べたことをもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる資料を明確にして、自分の考えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと比較し、相違点や共通点を意識して友達の考えを聞くようにさせる。 <p>○明治維新を機に欧米に追い付くために積極的に文化を取り入れようとしたことを理解している。</p> <p>(知識・技能)【発言・ノート】</p>	
3	<p>【まとめあげる】</p> <p>6 自分の言葉で学習のまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>文明開化によって西洋の文化が取り入れられ、人々の生活は大きく変化した。しかし、西洋風のものは何でもよいという風潮が広がったり、期待通りの変化がなかったりもした。</p> </div>		
2	7 本時の振り返りを行う。		

②5/11時

i) 目標 津田梅子の業績について理解する。(知識及び技能)

ii) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価(観点)【方法】	資料
3	<p>【見いだす】</p> <p>1 津田梅子の学習を進めることへの見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新5千円札のデザインから、津田梅子に対する関心を高められるようにする。 ・肖像画に選ばれる程の功績があったということを確認する。 	新5千円札のデザイン
2	<p>2 本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>津田梅子はどのような業績を残したのだろうか。</p> </div>		
5	<p>【自分で取り組む】</p> <p>3 学習問題に対して、知っていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使節団の一員として、アメリカに渡った留学生である。 ・11年にも及ぶ留学生生活を送った。 ・帰国後に再びアメリカに留学した。 ・女子英学塾(現在の津田塾大学)をつくった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前のアンケート出ていた業績については全体で共有し、児童が知らない業績を調べる時間を確保する。 ・数え年の考え方や児童の誤った認識については解説し、正しく理解できるようにする。 	

20	4 予想が正しいかどうか調べる。 ・満6歳という最年少で女子留学生に選ばれ、アメリカに渡った。 ・帰国後に日本の女性が高等教育を受けることができるように尽力し、女子英学塾を開いた。	・財務省のホームページ等を活用し、多角的に調べることができるようにする。	副読本 タブレット
10	【広げ深める】 5 調べたことをもとに話し合う。 ・根拠となる資料を明確にして、自分の考えを発表する。	・自分の考えと比較し、相違点や共通点を意識して友達の考えを聞くようにさせる。	
3	【まとめあげる】 6 自分の言葉で学習のまとめを書く。 津田梅子は、満6歳という最年少で女子留学生に選ばれ、アメリカに渡った。帰国後に日本の女性が高等教育を受けることができるように尽力し、女子英学塾を開いた。	○津田梅子の業績について理解している。 (知識・技能)【発言・ノート】	
2	7 本時の振り返りを行う。		

③6/11時

i) 目標 津田梅子の人生を知ること、女性の生き方について主体的に考え、課題を見出す。

(学びに向かう力、人間性等)

ii) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価(観点)【方法】	資料
3	【見いだす】 1 本時の学習問題をつかむ。 なぜ津田梅子は女性が教育を受けられるように力を尽くしたのだろう。		津田梅子の肖像画
2	【自分で取り組む】 2 学習問題に対する予想を立てる ・日本の女性も勉強してほしい。 ・女子高等教育を受けられる場所を作りたい。 ・女性も平等に教育を受けられるようにしたい。	・津田梅子の思いに目を向けられるように、女性の生き方について考えるように助言する。	

20	<p>3 予想が正しいかどうか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オールラウンドウーマン(女性も自立した人間になる)という考え方をもっていた。 ・男性と対等な立場に立つために、女性も勉強する必要がある。 ・女性も社会で活躍することができる。 <p>【広げ深める】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文明開化後も社会では女性に対する格差があったことを想起させる。 ・女性も学問に対する意識が低かったことや、女性を受け入れる学校もなかったことに気付かせる。 ・オールラウンドウーマンという言葉に込められた津田梅子の想いについて理解できるように補足説明を加える。 	副読本 男女別就学率の推移
15	<p>4 調べたことをもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる資料を明確にして、自分の考えを発表する。 <p>【まとめあげる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと比較し、相違点や共通点を意識して友達の考えを聞くようにさせる。 	
3	<p>5 自分の言葉で学習のまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>津田梅子は、日本の女性も男性と対等な立場に立つために勉強をして、自立した人間（オールラウンドウーマン）になる必要があると考えた。そうすれば、女性も社会で活躍できるようになるという思いをもっていたから。</p> </div>	<p>○津田梅子の人生を知ることで、女性の生き方について、主体的に考え、課題を見出そうとしている。</p> <p>(態度)【発言・ノート】</p>	
2	<p>6 本時の振り返りを行う。</p>		

④7/11時

i) 目標 津田梅子の考えに着目し、明治時代の政策や社会の課題をとらえ、よりよい社会をつくるにはどうしたらよいか考え、表現する。
(思考力, 判断力, 表現力等)

ii) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価(観点)【方法】	資料
3	<p>【見いだす】</p> <p>1 本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>津田梅子はどのような社会を作ろうとしたのだろう。</p> </div>		津田梅子の肖像画
2	<p>【自分で取り組む】</p> <p>2 学習問題に対する予想を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の女性も自立してほしい。 ・男性と女性が対等な関係になってほしい。 ・女性も社会で活躍することができるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文明開化後も、男性と女性の立場や身分の差があったことを想起させる。 ・明治政府は制度によって社会を変えようとしたが、津田梅子は女性の意識を変えること 	

20	<p>3 予想が正しいかどうか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性も男性も平等で対等な関係であるべきだと考えた。 ・女性も自立して生きるというように、意識を変えることが必要だと考えた。 	<p>とによって社会を変えようとしたことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津田梅子は、日本における女性の立場をどのように変えたかったのかを考えさせる。 ・現代の社会における男性と女性の立場の違いについても考えさせる。 	副読本
15	<p>【広げ深める】</p> <p>4 調べたことをもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる資料を明確にして、自分の考えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと比較し、相違点や共通点を意識して友達の考えを聞くようにさせる。 	
3	<p>【まとめあげる】</p> <p>5 自分の言葉で学習のまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>津田梅子は、江戸時代までの女性の立場や社会の仕組みを変えるために、自身の生涯をささげて、日本の女子高等教育発展のために力を尽くした。</p> </div>	<p>○津田梅子の考えに着目し、明治時代の政策や社会の課題をとらえ、よりよい社会をつくるにはどうしたらよいか考え、表現している。（思考・判断・表現）【発言・ノート】</p>	
2	<p>6 本時の振り返りを行う。</p>		

(3) 仮説の考察

検証授業の成果の分析を待つことになるが、今回作成した「津田梅子」の副読本を教材として扱うことで業績の理解や、往時の社会の課題を見出すことにつながることを期待される。また、よりよい社会をつくるにはどうしたらよいかを考える児童は育成することができるであろう。

しかし、「よりよい社会の実現に寄与する生きる力を培うこと」については検証授業の結果を分析し、副読本の内容も含め、研究を続けていく必要があると考える。

7 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ・津田梅子を教材化することで、自ら課題を見出す児童の育成におけた見通しが持つことができた。
- ・児童にとって身近な先人の教材化は、「よりよい社会の実現に寄与する生きる力を培う社会科学習」の実現に向け、一助となり得る。

(2) 今後の課題

- ・実際に指導し、児童の学びをとおして、研究の成果と課題を分析していく。
- ・自ら課題を見出す児童の育成については本単元の指導のみでは不足である。その他の単元の指導、ひいては他教科の学習指導においても、カリキュラムマネジメントの視点をもって指導にあたっていきたい。